

敷島中学校学校通信



# 敬愛

令和4年3月9日

文責 こしいし まこと 興石 信



「敷島中ホームページ」へ

卒業特別号

朝出勤し、校長室の窓から外の景色を見ることから一日が始まります。窓越しに入る日差しもだいぶ温かく感じられるようになりました。春の足音が聞こえてきます。今日は3月9日。いよいよ明日は卒業式です。



## ○ 卒業生の皆さんへ

「卒業」のことを、英語で、「コメンズメント(commencement)」と言います。もともとは、「はじめ」とか「はじまり」という意味の単語です。卒業は、ひとつの「終わり」と同時に、新しい「はじまり」です。153名の卒業生それぞれが新たな自分づくりのスタートラインに立ちます。卒業生には、将来の夢や職業について、「私・自分」といった視点からだけでなく、「私たち・自分たち」を取り巻く、家族や地域、社会全体を住みやすいものにしていくといった視点からも、夢や目標を掲げてほしいと思います。そして、お金や名声といった自分の欲を満たすだけでなく、自分と異なる価値観をもつ人を受け入れる寛大さや、目に見えないものに思いを馳せる豊かな想像力、手垢のついたものの見方に囚われない瑞々しい感性、考えたことを行動に移していく若者らしい実行力、失敗を恐れない挑戦者としての態度など。これからの社会を担う皆さんに大いに期待しています。

私の好きな俳句に、「春風や 闘志いだきて 丘に立つ」(高浜虚子)があります。

息を切らしながら駆け上り、小高い丘の上に立つ。広がる景色に未来を思う。その時に穏やかな春風。「ああ、春の風だ」という感動。その感動に包まれながら、ふつふつと身体の内側から湧き起こる感慨。それが「闘志」です。「闘志を抱いて丘に上った」のではなく、眼下を一望し、春の風に命を与えられて生まれた気持ちが「闘志」です。「春風や」という詠嘆が「闘志いだきて丘に立つ」という自分の姿の発見につながっています。「丘」の存在も重要です。小高い丘の上からの眺望が未来に立ち向かう思い、「闘志」をもたらししているからです。丘の上で生まれ春風に育まれる思いは、未来に向けてのものでしょうか、それが希望や夢ではなく、「闘志」ところが、私の好きな理由です。

夢や目標は掲げたから実現するものではありません。それこそ「闘志」という言葉のとおり、立ち向かっていってこそ叶うものです。難しいからこそ夢であり目標です。ですから、実現させるには少しのことにはへこたれずに歯を食いしばってでも向かっていく気持ち、「闘志」をもって、夢・目標に挑んでください。心から応援しています。

## ○ 卒業生の保護者の皆様へ

お子様のご卒業おめでとうございます。思春期の一番難しい時期である3年間は大変なご苦労があったことと思います。無事に卒業まで子どもと共に歩んで来られたことに心から敬意を表します。まだまだ子供たちは成長の過程です。失敗もあれば挫折もあることと思います。今後も、温かく、時に厳しく関わりながら育てていただくことをお願いします。

また、本年度も、コロナに関する対応について多くをお願いをし、ご協力いただきました。学校としましては、その都度、子供たちのことを考え、判断や対応をしてきたつもりですが、不十分なところもあったかもしれません。こうした特別な状況下であるからこそ、この1年間の学校経営にあたり、改めて、学校は保護者の皆様に支えられてあることを、つくづく実感しています。本当にありがとうございました。最後までお願いばかりになりますが、今後は、敷島中の保護者OBとして、地域の学校である「敷島中」を温かく見守っていただけたら幸いです。

## ○ 在校生の皆さんへ

最後に、在校生の皆さん。明日で先輩たちともお別れです。先輩たちのみごとな活躍やリーダーシップをしっかりと受け継ぎ、4月から皆さん一人一人のもっている力を出し合って、さらに素晴らしい敷島中の伝統や校風づくりに力を発揮してくれることを大いに期待しています。「敷島伝」の物語の続きを作っていくのは君たちです。